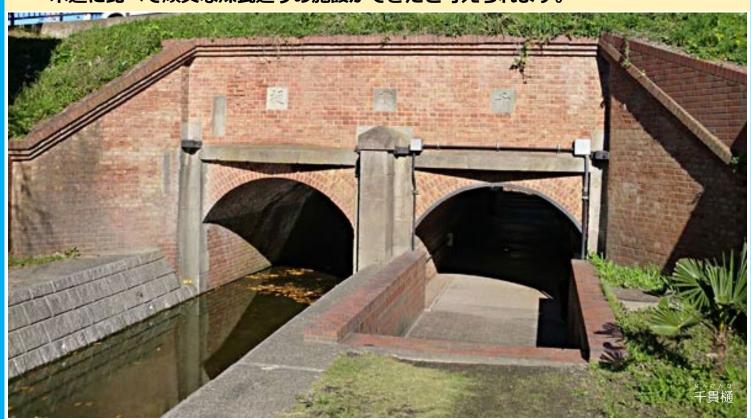
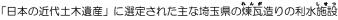
# 煉瓦造りの利水施設

## ~埼玉には煉瓦造りの利水施設がなぜ多い?~

埼玉県に煉瓦製造の会社ができ、入手しやすく 木造に比べて頑丈な煉瓦造りの施設ができたと考えられます。









さんけんやひかん

### なぜ埼玉の利水施設は煉瓦造りが多い?

埼玉県深谷市に、渋沢栄一らが中心になって1887(明治20)年に日本煉瓦製造㈱が設立されました。上敷免一帯は良質な粘土が採集され、東京にほど近く、利視川の水運があり、1884(明治17)年には鉄道も開通し、利便性の面からも工場立地に最適と判断が下され、1889(明治22)年から本格的な工場操業が開始されました。そうして、従来の手作りの小規模生産ではなく、機械による煉瓦の大量生産が可能となったことが、干貫樋や三軒家樋管などをはじめとした埼玉県内の水門樋管等の水利施設に煉瓦構造が多くつくられることとなった一因と考えられます。

さいたま市桜区にある千貫樋は、かつて荒川とつながっていた韓川の旧流路跡を流れ、現在では千貫樋水郷公園として整備されています。

#### ▶ 北美圦樋(きたみいりひ)

江戸時代の絵図にも圦樋が記されており、1899(明治32)年に木製から煉瓦造りに造り替えられ、北美圦樋と呼ばれるようになりました。通常時は水田の落ち水などを、当時は近くを流れていた新河岸川へ流し、川の水位が上がった時は水門を閉めて堤内への漫水を防ぎました。

北美圦樋は、当時の入間郡宗岡村が埼玉県の技術指導と県税の補助により建設したものです。煉瓦造りで当初は木製のスルースゲート(板を人力で上下させて開閉)とその下にフラップゲート(水流で開閉)が取り付けられていましたが、現在はありません。

埼玉県内に現存する煉式造りの桁型槌門(水路の天井部分に切り石が並べられた槌門)の中では最古のものであり、外観も良好に保たれています。(住所:志木市中崇岡1丁目)



北美圦樋

### ▶ 笹原門桶

1901 (明治34) 年に旧発川の右岸堤防に設けられた制水施設で、灌漑用水の取水や増水時の逆流を防ぐ水門の機能を果たしていました。

2015 (平成27) 年に加越市指定有形文化財に登録されました。 (住所: 川越市大字音谷上地内)



笹原門樋

## ラ **仏** 昔なつかし、明治の香り漂うレンガ造りの協管

新河岸放水路にかかる立堀橋を起点に、県道川越新座線と県道大宮上福岡所沢線の合流地点方向に約10m。立堀橋のたもとから伸びる細い水路をたどって行くと、レンガ作りの樋管が見つかります。明治時代に建造されたと伝えられ、一部破損しているものの建造当時の姿を保っています。「三軒家樋管」の文字がレンガのアーチ上に刻まれ、明治時代にタイムスリップしたかのような錯覚におちいります。樋管の規模は幅3.35m、高さ3m。あたりの肥沃な田畑を踏み荒らさぬよう注意しながら樋管をのぞくと、2本の水路が往時のままに流れているのに出会えます。

#### アクセス

せんかんび 千書桶

交通:JR「浦和」下車、国際興業

バス「浦13」「浦桜13」「 浦桜13-3」乗車、「中島」

下車

住所:さいたま市桜区大字五関地内

三軒家樋管

交通: JR • 東武鉄道 • 埼玉新都市

交通「大宮」下車、西武バス 「大34」「大35」乗車、「

東大久保」下車、徒歩6分

住所:川越市大字渋井地内



千貫樋



三軒家樋管